

みんなでつくる むらのルール

日吉津村 自治基本条例策定委員会

協議中

今後の村がどうあるべきか活発な意見交換が行われています！

今年9月、自治基本条例の策定を進める組織として、「日吉津村自治基本条例策定委員会（以下、策定委員会）」が発足しました。公募（30代～60代）10名、各団体代表8名、職員2名の計20名で構成し、運営されています。

策定委員会は、全体会議とグループ討議（3グループ）を中心に活動しています。現在、5回の会議を重ね、「行政・議会・村民・地域等について今後どうあるべきか」という内容で、各委員から意見をいただき、それをもとにグループごとに意見交換を行なっているところです。今後は、話し合った内容を条例の項目ごとに振分けながら、村民の立場から条例に盛り込みたい内容を検討していきます。

こうしたい!!
ああしたい!!



あれや
これや!



●「今後のむらがどうあるべきか」主なご意見！●

※下記は委員の個人的な意見で、条例に盛り込むことを決定したものではありません。

行政

- 村長は、我がむらをどういうむらにしたいのか、方針を明確に。
- 職員はコーディネート役になる。
- 村民の問い合わせについてスピード感に欠ける。
- 諸行事に対して、計画性が乏しい。

議会

- 議員活動の内容が今ひとつ分かりにくい。
- もっと村全体のことを考え、行動してもらいたい。
- 議会の様子など村民と対話する機会が欲しい。
- 議会は、委員会を含め全面公開として欲しい。

その他

- 「参画と協働」を目標とするなら、様々な情報を互いに共有し、理解し考えていける仕組みが必要。
- 安全・安心して住めるむらであって欲しい。
- 「ガッツ日吉津っ子」を育成する。
- シンボル「チューリップ」は何とかならないか。

村民

- 補助金体質が抜けない人が多い。
- 自分たちが住むむらは、自分たちが創るという意識を持つ。
- 村民は、権利を期待するなら義務をしっかりと果たし、責任を持って行動・発言する。
- 地方自治に積極的に参加する。
- 海岸・河川等自然を大切にする意識を持つ。
- 村民の中には豊富な知識と経験、視野を持った人がいる。

地域

- 自治会未加入者の対応が必要である。
- 自治会内のコミュニケーションが取りにくい。
- 隣近所の繋がりが希薄となり、コミュニティ活動の輪を広げることが必要になっている。
- 自治会の区域割りや組織のあり方を考える時期にきている。
- 地域活動に参加する人が少なくなっている。
- 各自治会公民館を開放し、活用できないか。